

那須野が原を 開拓した華族とは

那須野が原に競うように農場をつくり、開拓をおしすすめた明治時代の貴族階級の人たち。正確には「華族」といい、その中には、明治維新や明治政府で活躍した人物も多くいます。



▶青木周蔵の娘、青木ハナ。周蔵は、外交官としてドイツにおもむいた際に出会ったドイツ貴族の令嬢エリザベートと結婚して、一人娘のハナが生まれた。



▲鹿鳴館貴婦人慈善会
高官の夫人たちが鹿鳴館でバザーを行っているところ。

那須野が原に ゆかりのある華族

東京から近い場所に、西洋の貴族のように領地をもちたい。そんな夢を抱いていたのか、多くの華族が、那須野が原に農場や別荘をもちました。那須野が原と関係深い華族を紹介しします。



青木周蔵 (1844-1914)
外交官、政治家。子爵。明治14年に青木農場を開く。



大山巖 (1842-1916)
軍人、政治家。公爵。明治14年に加治屋開墾場、34年に大山農場を開く。



西郷従道 (1843-1902)
軍人、政治家。侯爵。明治14年に加治屋開墾場、34年に西郷農場を開く。



品川弥二郎 (1843-1900)
外交官、政治家。子爵。明治16年に品川開墾場を開く。



乃木希典 (1849-1912)
軍人、教育者。伯爵。明治24年、狩野村石林に別荘を建てる。
写真：乃木神社蔵



平田東助 (1849-1925)
官僚、政治家。伯爵。品川開墾(のちの傘松農場)を引きつぎ、品川信用組合設立。



松方正義 (1835-1924)
政治家。公爵。明治26年に平本松農場を開く。



三島通庸 (1835-1888)
官僚、子爵。明治13年に鞆耕社、19年に三島農場を開く。



山縣有朋 (1838-1922)
軍人、政治家。公爵。明治17年に山縣農場を開く。
写真：山縣有朋記念館蔵



山田顕義 (1844-1892)
軍人、政治家。伯爵。明治21年に山田農場を開く。
写真：山田資料館蔵

明治時代の 「華族制度」

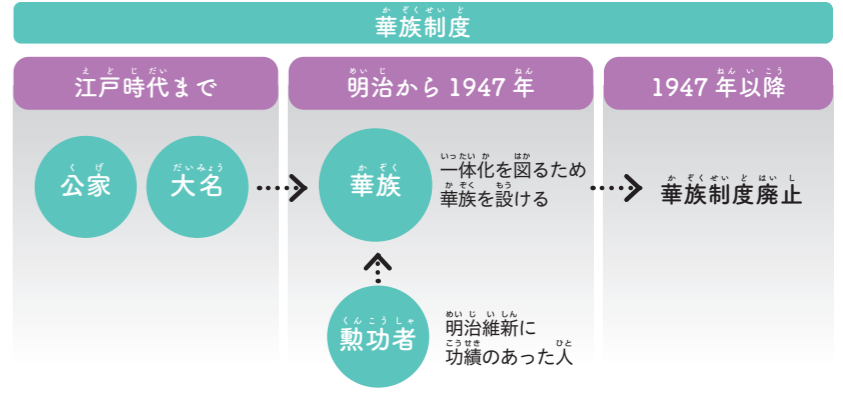
日本の貴族階級は、江戸時代までは天皇につかえる公家などのことを指しました。対して「華族」は、明治時代に新しくつくられた貴族階級の身分です。明治政府のもと国の制度が変わり、それまで藩主(大名)がおさめていた藩がなくなって政府が管理する県となり、大名は藩主でなくなりました。身分の高い人たちの地位を保つため、公家にくわえて大名、さらに明治維新に功績のあった人も華族に組みこみました。爵位は上から順に、公爵・侯爵・伯爵・子爵・男爵の5つに分けられ、特権と義務などが定められました。華族制度は、1947年(昭和22年)、日本国憲法が制定されるまで続きました。

華族の暮らし!

華族は、国から支給されたお金をもとに投資をするなどして、豊かな暮らしを送る人が多くいました。また西洋風を取り入れる人も多く、鹿鳴館などの社交場で外国の人々と交流したり、舞踏会でおどったりと、優雅な暮らしぶりでした。



▲鹿鳴館
西洋の制度や文化を取り入れ、近代化をすすめる国の政策により、外国の外交官などと交流するためにつくられた洋館。
写真：社団法人 霞会館



▲貴族院のようす
明治時代の帝国議会(現在の国会)には衆議院と貴族院があり、貴族院の議員になれるのは皇族や華族など、特権階級の人たちだけだった。



▲華族の洋装
(左) 文官大礼服(1925年(大正14年))。 (右) 文官大礼服と女性のローブ・デコルテ(レプリカ)。



▲洋食器類
松方正義邸で使用されていたもので家紋が入っている。皿類はイギリス製。ナイフ、フォーク、スプーンなどはフランス製。